

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-54	14-111	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The combined effects of alcohol consumption and body mass index on hepatic steatosis in a general population sample of European men and women. 欧州一般男女における脂肪肝に対するアルコール消費と BMI の重複効果</p>		
執筆者		
Lau K, Baumeister SE, Lieb W, Meffert PJ, Lerch MM, Mayerle J, Völzke H.		
掲載誌		
Aliment Pharmacol Ther. 2015 Mar;41(5): 467-76. doi: 10.1111/apt.13067.		
キーワード		PMID
脂肪肝、肥満、体重過多、アルコール消費、暴飲		25588768
要 旨		
目的：		
<p>脂肪肝とアルコール消費の関連に関する研究では相反する結果が示されている。脂肪肝と平均的な飲酒量あるいは脂肪肝と暴飲の関連を検証するとともに、BMI を加味した重複効果を検証する。</p>		
方法：		
<p>ドイツ北東部の一般住民 4,009 名が参画した SHIP (Study of Health in Pomerania) 研究のデータを用いた。アルコール消費は自己申告により評価され、アルコール消費のバイオマーカーとして血清 CDT(carbohydrate-deficient transferrin)を用いた。脂肪肝は超音波検査法により診断した。</p>		
結果：		
<p>超音波検査法により 1,183 名が脂肪肝と診断され、男性に多かった。脂肪肝の男性は脂肪肝の女性よりも平均アルコール消費が多く、暴飲の頻度も高かった。アルコール消費 1 日 20g 以上の男性において平均的な飲酒量と脂肪肝に用量依存関係が確認された(禁酒者との比較において調整オッズ比 1.53、95%信頼区間 1.15-2.05)。男性の暴飲は脂肪肝と関連があった(非暴飲者に対する暴飲者の調整オッズ比は 1.36、95%信頼区間 1.06-1.74)。男女ともに日常の平均アルコール消費の増加と肥満もしくは体重過多との組み合わせで脂肪肝が多く確認された。同様に暴飲と肥満もしくは体重過多の組み合わせで脂肪肝のリスクが助長された。</p>		
結論：		
<p>一般住民において肥満もしくは体重過多は、1 日平均アルコール消費の多さや暴飲の脂肪肝に対する影響をさらに助長することが確認できた。このことから、脂肪肝予防のためには複数のリスク因子評価は必要であることが示唆された。</p>		